

## 追 悼

# 大沼保昭先生を偲んで

創価大学平和問題研究所 所長 玉 井 秀 樹

大沼保昭先生は世界に知られた国際法の泰斗であり、その学問上の功績はあまりにも大きいですが、先生はそうした学問的業績をあげられるに止まらず、戦争責任問題をめぐって対立する日韓・日中関係の改善に取り組むなど、実際に人権を擁護し、平和を構築することに尽くされた真の平和追求の人でありました。平和研究を志す学徒として、これほど偉大な研究者の逝去を惜しまずにはいられません。謹んで哀悼の誠をささげます。

東大法学部教授として教鞭をとられた後、2009年から明治大学特任教授に就かれていた大沼先生が、創価大学を訪問される縁となったのは、草創期の本学経済学部で教鞭を執られた大熊信行教授でした。大沼先生は、大熊教授の学風と人格に惹かれ、同郷（山形県）であったこともあり、若き日に大熊教授に私淑されていたとうかがいました。大熊教授が逝去され、その葬儀で創価大学での教育に情熱を傾けられていた大熊先生の言行を知って以来、大沼先生も本学に強い関心を持っておられたとのことでした。

そして、2014年12月、本学に隣接する公益財団法人・東洋哲学研究所が主催する研究会である「社会と宗教」セミナーでの「文明史の観点から見た21世紀の世界」の講演者として八王子にお出でになり、本学にも初めて訪問されました。大熊先生の事跡を知る大学首脳とも懇談の機会をもたれて、大熊先生が創価大学建設にかけられた思い、創立者・池田大作先生との関係を聞かれ、さらに本学への御理解を深めていただきました。

そして、大沼先生からは、「大熊先生が情熱を傾けた創価大学に私としてもできる限りの協力をしたい」とたいへんにありがたいお言葉をいただき、翌2015年から早速に平和問題研究所が開催する平和講座にて講演をしていただきました。

さらに2016年からは、創価大学平和問題研究所・客員教授の委嘱をお受けくださり、平和講座で学生に親しく講義され、さらに当研究所設立40周年記念シンポジウム開催にあたって様々に御助言をいただくなど、本学の研究・教育の発展に大きく貢献されたのです。大沼先生の御協力をさらにいただき、あらたな研究活動の進展とを考えておりましたところ、思いがけなく先生が病にて体調を崩されていることを知らされました。

私たちには推し量ることのできないたいへんな闘病生活があったことと思いますが、先生の旺盛な研究活動、執筆活動は衰えることはありませんでした。遠方にもかかわらず、平和講座のために本学までお越しくださいましたことを忘れることはできません。また、「誰にでもわかる『生きた国際法』の新書を最後に書きたい」とおっしゃられて、亡くなる前日まで筆を取られていたという遺作『国際法』は、人権の擁護と人類の平和の達成のために尽くされてきた先生の熱誠の結晶であると思います。

大沼保昭先生はこうして最後まで知的創造を続けながら、2018年10月16日、その尊き生涯を終えられました。大沼先生の御遺徳と御功績を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今回、研究所紀要『創大平和研究』に、御遺族の御理解を得て、大沼先生の本学での最後の講義内容を掲載させていただきました。大沼保昭先生が最後に教授をお勤めいただいた創価大学に奉職する者として、先生の御遺志をしっかり受け止め、平和創造に貢献する活動に取り組んでまいります。